

聯合艦隊機密作第

號別冊

(第四南遣艦機密第

號)

「マリアナ」戰訓ニ就テ

聯合艦隊參謀

陸軍大佐

島村 矩康

東部隊參謀部
昭和十九年十月一日復寫

目次

- 序言
- 第一 サイパン防備ノ實情
- 第二 サイパンニ於ケル敵砲爆撃ノ狀況
- 第三 サイパンニ戰ニ關スル觀察
- 第四 艦砲威力ノ評價
- 第五 制空威力ノ評價
- 第六 島嶼防衛上ノ對策
- 第七 離島防衛上ノ若干問題ニ關スル補足的説明
- 第八 上陸防禦裝備ニ就テ

序言

凡ソ戰訓ハ之ガ利用宜シキヲ得ハ尔後ノ作戰ナリ戰鬪ノ指導ヲ進歩セシムル
 其ノ事實ノ亂明ニ資料ヲ之ニク乃至ハ利用者カ梯尺ヲ誤ルニ從ヒ往々反軍
 的結果ヲ來シ却テ不利ヲ來シ易シ
 サイパン戰現地部隊カ玉碎ノ決意ニ先タチ國軍ニ裨益スヘク上司ニ至リテ
 ル貴重ナル戰訓報告ハ資料ノ全統ヲ見サル向ニ對シ往々上陸防禦ニ關シ
 稍ニ行過キタル反動的傾向ヲ與ヘツアル點ヲ憂慮シ同島防備ノ實情ノ若
 干ヲ知リアル小官トシテ敢テ本所見ヲ開陳シ戰訓ノ真意ヲ闡明セント欲
 セル次第ナリ

第一 サイパン防備ノ實情

後述艦砲射撃及制空威力ノ評價ニ關聯スルサイパン防備ノ實情若干
 ヲ述フレバ左ノ如シ
 一 敵上陸正面ノ判斷
 本件ハ守備兵團ガ本年三月ヨリサイパン進出以來一貫シテ敵ハサイパン西海
 岸港内特ニオレイアイ正面(現ニ敵軍上陸セリ)ニ上陸ヲスリトテ飛行場
 奪取ヲ圖ルヘキニ致シ現ニ五月ノ如キハ之ヲ設想シテ陸海聯合演習ヲ實施

在サイパン部隊ノ電報ニ基ク敵砲爆撃ノ状況左ノ如シ

- 一 上陸準備間 (自六月十一日 至六月十四日)
- 十一日 延一九。機 損害軽微
- 十二日 六次延四。機 損害軽微 撃墜三。(AA火)
- 十三日 延二二。機及艦砲射撃 損害同様軽微
- 十四日 同

右 敵舟艇環礁偵察及標示 戦早通過試験

右四日間ノ損害僅少ノ見込

二 上陸第一日

- 四三。船(因大型四)現出LST約四。隻ヨリ舟艇(各LST舟艇以隻積)
- 五〇。舟艇海岸ニ向ケ出發
- 五三。戰艦七隻以下砲撃 在空中ニ。機ニテ少シ
- 七四。環礁通過海岸ニ達著
- 艦砲射撃ニ任シタル敵艦ハ戰艦七乃至八。巡洋艦三。駆逐艦ニ
- ニシテ火炮三百門以上ノコトアリ 瞬發信管附榴彈ニシテ夜間ハ

照明彈ヲ利用ス

三 上陸初期ニ於ケル艦砲射撃ノ効果
 派遣砲兵學校教官ノ電報ニ依レバ、水際陣地ハ四日間、砲撃ニ拘ラス健在セリ 視測所火炮掩体ハ銃撃ニ對抗シ得ル掩蓋ヲ装スレハ砲撃下ニ温存シ得 偽陣地ノ効果大、豫備陣地ハ移動ハ昼夜間共砲撃下ニハ困難、通信断線多ク補修及伝令必要

四 尔後ノ戦況ノ推移ニ伴フ砲爆撃ノ威力

十六日夕刻迄ニ敵艦砲射撃及銃爆撃ヲ反覆シ地歩擴大ヲ圖リタルモ其ノ前進ハ遲々トシテ戦線(前記要圖参照)ニ大ナル変化ナシ
 十六日夜大夜襲決行 敵線ノ一部ヲ突破一大隊ハ敵ノ背後ニ突入セモ全般ニ損害甚大頓ニ戦力喪失上級司令部ト夜襲兵因テ連絡ハ一時杜絶齊藤中將戦死ノ誤報スラ傳ヘラル(連絡ノ捷路海岸道ハ敵ニ占領セラレ迂回ハ山地ノ障害アリ)
 十五日敵ハ砲兵ヲ揚陸セス十六日ノ戦況上述ノ如クナリシガ十六日正日上陸ヲ續行シ砲兵ヲ展開十八日猛砲爆ト多数ノ戦車砲兵ヲ以

テ海岸、橋頭堡ヨリ猛撃ヲ開始シ戦況極メテ重大ナリ。
限リテク落下シ來ル砲爆下晝間部隊ノ行動ハ絶対不可能軍
ハ戦線ヲ整理ニ決セリ

敵ハ砲爆銃撃ヲ續行シツ各方面滲透的ニ前進中ナルモ其ノ速度
ハ目下ノ処大ナラズ

五 備兵因報告ノ綜合戰訓
制空制海権ヲ失ヒ熾烈ナル砲爆撃 下島嶼ノ防禦ハ成立セス

第三 サイパン戦ニ関スル観念

艦砲射撃及制空威力ノ評價ニ関シテ、後述スヘキモサイパン戦ニ於テ敵
上陸第四日上陸點ヨリ四料ニ右ルアスリートト飛行場ヲ占據セラルルニ至
リ一般ノサイパンノ防備力ニ對スル期待ヲ裏切レリ其ノ原因ヲ單ニ敵
制空制海権乃至ハ極端ナル小單ニ艦砲射撃手ノミニ歸セントスルハ
事實ニ即セサルモノト考フ以下主要ナル點ニ就キ小官ノ所見ヲ述ヘントス
一 築城、交通ハ十分ニ實施セラレシヤ
二 艦砲、制空ノ威力ハ今ニ始リタルモノニアラスヨギルバード、マーシャル、南東方
面ノ戰訓皆之ヲ證明セリ之ニ對抗スル為ニハ數帯陣地戰ノ積リニテ

築城交通ヲ整サルヘカラス既述ノ如ク此ノ點ニ於テ遺憾ノ點アリテ一線
ノ水際陣地以上ノモノナカリキ「ベトン」工事ハ望マシキモ野戰築城ニテモ
十分數線數帯ノ縱深陣地ハ編成可能ナリキ

二 艦砲射撃ニ依リ水際陣地ハ破壊セラレシヤ
既述ノ如ク全ク否ラス

三 制空及艦砲威力ハ何ヲ妨ケシヤ
部隊層間行動及連絡ヲ殆下不可能ナラシメタリ

四 友軍航空及艦隊ノ支援ハ實施セラレシヤ
十九日發生セル「マリヤナ」西方ノ海戰ニ集中スルタメ「サイパン」ハ同日以
前ニ支援ハ行ハサリキ

五 泊地攻撃ハ行ヒシヤ
「サイパン」港ノ海岸砲台ハ活動シ敵ノ同港上陸ヲ阻止セルモ「オレイ」方
面ニハ有効ナル海岸砲台ノ協カナシ

六 水際火力ハ十分ナリシヤ
前述ノ如ク敵上陸正面、彼我戦力比ハ上陸隊ノミニテモ一師団對天
隊ナリ事前ニ豫備隊展開ノ形蹟ヲ認メス

七 敵橋頭堡擴張ノ企圖ヲ如何ニ阻止セルヤ
ク

十五日十六日ノ狀況既述ノ如シ若シ一料以上ノ縱深アル陣地殊ニ海岸ヨリ東方約一料ノ兵稜線ニ第二陣地帯アリテ適時豫備隊及他方面ヨリ輻射セル兵力ヲ招致シ火力包圍態勢ヲ取ラハ敵ノ尔後ノ攻撃的戰法ヲ取ルヲ以テ組織的抵抗會スルヤ大鐵量ヲ以テ之ヲ排除シタル後ニテラサレハ正面攻撃ヲ爲サザハナリ(ムンダゴロンバンガラ等ノ戰訓)

八十七日夜襲ノ成敗

齊藤師團主力ヲ以テセル夜襲ハ局部的ニ成功セルモ全局ニ於テハ我戰力ノ急激ナル喪失ヲ來シ其態勢ヲ整理ノ爲「ホターチヨ」山東麓(アスリート)飛行場正面ヲ開放ニ集結セシメタリ此ノ間敵ノ進攻ヲ直接阻止スヘキ配備ハ稀薄(或ハ穴ヲ生ス)ト成リ敵ヲシテ容易ニ同飛行場ニ突進スルニ至ラシメタルノ疑アリ
以上ヲ綜合スレハ若シ築城交通ヲ十分ニ且兵力移動ヲ確實ニ實施スルノ準備ヲ整ヘ又夜襲兵力ノ限定等戰力急激低下ヲ避ケル敵ノ制空制海下ニ在リテモ一層鞏固ナル持久力ヲ發揮シ得タルナラント推定

セラル

第四 艦砲威力ノ評價

防者ハ熾烈ナル攻撃ヲ準備砲撃ヲ對象トシ防禦準備ヲ整フレハ艦砲射撃手ニ堪エ易シ
前歐洲大戰陣地戰ノ攻撃準備射撃ノ每料ニ〇乃至三〇中隊(約百門)ニ達シ其ノ破壊力及制壓ノ熾烈ナルモノアリシモ尚之ニ對抗スル戰法ハ索メラレタリ陣地ノ縱深化第二線兵團(砲兵及步兵師團)ノ運用ノ砲兵ニ因ル阻止、彈幕、擊頭上ヲ超エルヤ機ヲ失セス機関銃ヲ以テスル火力發揮、計画的、遊龍等是ナリ
ムンダゴロンバンガラニ於テモ密林原野ト化スル程ノ攻撃準備射撃並鏡爆撃ヲ受ケ密林ヲ逐フテ戰場ヲ計画的ニ後退セリ
艦砲射撃ノ火力密度ハ「サイパン」ニ於テモ其ノ破壊威力ニ於テ制壓威力ニ於テ右ニ達セルモノニアラス國軍ハ火力威力特ニ火力密度ニ關スル經驗ニ乏シクカ、ル梯尺ヲ一般ニ認識セシムルハ容易ナラサルモ今後ハ是非一兵ニ至ル迄ニ對抗スル戰法ヲ徹底シ艦砲射撃ニ於テモ從

來ヨリハ一層熾烈ナルモノニ遭遇スルヲ覺悟セサルヘカラス

艦砲射撃ノ威力

此ノ威力ハ砲種砲數彈種觀測法ニ依ルハ勿論射撃目的及射法ニ依リ著シク差異アリ

本來破壊威力ハ其ノ口径ノ關係上命中スルハ頗ル大ナルヘ、若シテ砲ノ精度モ良好ナルモ艦ノ移動ノ為陸上ノ小口径法ノ如キ多ク散彈ノ集中精度ヲ期待スルト困難ナル特性アリ從テサイバニ於テモ著明ナル垂直直目標(例ハ通信所)又ハ地域射撃ニ依ルモ破壊効果ヲ收メ得ル目標(例ハ飛行場)ニ好シテ射撃ヲ指向スル傾キアリ又海岸砲台ニシテ發見セラルルヤ距岸ニ射内外ノ駆逐艦ヨリ精確ナル射撃ヲ受ケテ破壊セラルル(大宮島)又水際陸地カ目標トナリ完膚ヲ行程ノ射撃ヲ蒙リシトアリ(テニアン)即チ艦砲ノ特色タル直射彈道亦敵艦ヲ對シテ好標的ト成ルハ最モ不利トスル所ナリ是距離彈道ハ勿論彎曲ス

又發射彈數ニ於テ海戰ノ準備彈藥數ハ陸戰ニ比シ僅少ニシテ十

糧級ハ百發ヲ多ク出テス陸戰攻撃射撃ニ於テ一門一日三百乃至五百發ヲ使用スルト趣ヲ異ニス

六月中旬受ケタル硫黃島ノ砲撃(射撃時間約二時間二千發)ノ迹ヲ視察セルモ破壊威力ハ爆彈ニ比較シ門題ニナラサル感アリキ(附圖参照)

昨年十月大島島ノ砲撃ニ於ケル本驗者モ同様ノ印象ヲ語ルコトアリ

(四) 制壓威力

米艦ハ榴彈ヲ使用シテテ殺傷効力ニ於テ同口径ノ陸戰砲ニ變リナク又口径及射程ノ大ナク其ノ精神的効果及威力半徑ハ頗ル大ナリ故ニ擾亂、交通遮断等ノ効果ヲ收ムルニ最モ適當スルモ步兵直接支援ノ如キ細カナル射撃ハ困難ナリ但シ大幅ノ制壓射撃ハ步兵ト連絡宜シキヲ得ル可能ナル道理ニシテ米軍ハ橋頭堡掩護ヲ阻止射撃ニ陸上ト連絡ヲ巧ニシ晝夜共之ヲ利用シ我行動ヲ制壓セリ故ニ艦砲ニ依ル精神的及地域的制壓威力ハ十分ニ之ヲ評價シ對應ノ準備ヲ整ヘサルヘカラス然レトモ障地ニ據レル歩兵カ艦砲射撃ト敵歩

兵戰車ノ間隙ヲ捕ヘテ機ヲ失セズ頭ヲ揚ケ火力ヲ發揚スル如キ戰法
ハ是非共之ヲ敢行セサルヘカラス又行ヒ得ヘキ苦ナリ

第五 制空威力ノ評價

米軍ノ行フ數十機ニ依ル終日不斷ノ制空威力ハ陸戰遂行上絶大ナル威
力ヲ有スルモノト断スルニ憚ラス殊ニ敵飛行場至近ノ距離ニ在ル場合ニ於
テ然リトス本件ノガダルレ以未我カ軍カ滿喫セル所ニシテ歴戰者ハ齊シ
クカル制空下昼間我行動ハ停止ノ已メナキニ至リ炊煙スラ揚ケ得サル
ニ至ル
凡ソ陸上戰ハ運動ニ依リ成立スス部隊ノ運動停止セハ陣内交通壕ニ
依ルカ密林内(椰子林ハ駄目)ノ外戰闘遂行殆ト不可能トナルヘク若
シ機動ヲ憑テ戰斗ヲ計画セハ大ナル蹉跌ヲ招クニ至ラン
前歐洲大戰時代ニ航空威力小ナリシ為防禦砲兵ノ集國威力ヲ以
テ克ク敵ノ攻撃歩砲兵ニ對抗シ得タルカ目標大ナル中口径砲ハ三發
發射スルヤ否ヤ敵機ノ破壊スル所トナル場合對抗裝備ノ選定上モ
亦深ク考テ慮ラ要ス
對空火器特ニ機關砲ノ敵機待受射撃ニハ頗ル有効ニシテ大宮島
ニテ一月間ニ二百余機ヲ撃墜セル例アリ

防空火網ヲ脊ニシツ行フ陸上戰ノ遂行ノ可能性ヲ暗示スルモノアリ
只防空火器ハ移動性ヲ缺クトキハ防禦的戰闘ニ遂行シ難キコト
或ルヘシ

戰場後方ノ交通ハ目標大ナル敵機ノ攻撃ノ目標トナルカ大範圍ノ作戰
行動ヲ遂行シ得ルヤ否ヤ敵機ノ威力範圍地形ニ關スルニ概シテ夜間
ノ外交通停止狀態ニ陥ルトトテ外考慮ニ置キアルヲ要ス
爆撃手ニ依ル破壊威力ハ小ナル島嶼ニ於テハ防禦組織維持上注意ヲ要
シ秘匿ノ敵爆撃機吸収兩方策ヲ併用スルヲ要ス 硫黃島ニ於ケル亦
中甸爆撃被害附圖ノ如シ

第六 島嶼防衛上ノ対策

次リヤ大ニ諸戰例ハ制空制海權ヲ敵手ニ委セル島嶼防禦カ其ノ遂行
容易トシサルヲ示シテ點ハ之ヲ諒トスルモ作戰全局ノ必要ハ制空制海權
ヲ敵手ニ委スルハ島嶼ノ持久防禦ヲ行ヒテ時間餘裕ヲ求メサルヘカラ
サル境遇ニ在ルトテ銘心ナルヲ要ス 此ノ際艦砲制空威力ヲ藉口ニテ
島嶼防衛ヲ絶望視スルカ如キハ許サザルニシテマリアナヒアノ戰

訓ヲ活用シ我不利ヲ諸種ノ手段ニ依リ補ヒ作戰目的ノ達成ヲ期セシ
ヘカラス
其ノ卑近ナル方法トシテハ昼間掩蔽セル交通運動ヲナシ得ル如ク全島
ヲ陣地化交通壕化シ爲シ得ルハ防空火器ヲ齊ニ全島ヲ陣地化シ
戰鬪ヲ遂行スル方式是ナリ 此ノ方法ハ裝備良好ナル兵團ノ小島
防衛ニ方リテ文字通實行ニ得ヘク島嶼ノ大小ト兵力ト關係土質ノ便
否等ニ依リ必シモ理想通り行ヒ得サルコトアラハ極力其ノ精神ヲ活用スヘキ
モノナリ
左ニ掲タル聯合艦隊ノサイパン戰訓ハ簡潔ニ之ヲ教示セルモノナリ

電報寫

聯合艦隊機密第一五二。六番電

昭和十九年七月十五日

發 聯合艦隊參謀長

宛 各艦隊 各警備隊 三上軍 五二師團 一四師團

通報 大海一部 第三方面軍 第三十二軍

南方軍總參謀長 第二方面軍

本文

サイパン發戰況報告ヲ基礎トスル當方觀察ノ主要戰訓左ノ如シ
一 島ノ狀況ニ應ジテ之ヲ活用セラレ度
艦砲射撃ノ威力ヲ過大視シ島嶼防衛ノ自信ヲ失フカ如キハ戒ムルヲ
要ス 艦砲射撃ハ航空重爆撃ト相俟テ昼間部隊ノ行動ヲ至難
ナラシメ 又夜襲不成功ノ因ヲナセルコトアルモサイパン敵上陸正面ノ水際
陣地ハ健在セリ
二 以下述ナル所ニ依リ此ノ威力ヲ克服スルヲ要ス
水際撃破ノ主義ハ一層高調ヲ要ス

但之線配備云々成功也
兵力之重點構成及適切ナル陣地編成ト相俟テ縱深ナル火力配備ヲ以テ
敵ヲ壓倒スルヲ要ス
水際歩兵陣地ハ千米以上ノ縱深ヲ設ケ其ノ更ニ後方ニハ第五噸ノ兵
力展開ニ應ズル築城ヲ縱深ニ設ク
特ニ對艦砲射撃手ノ設備(掩蓋、輕易ナルモ有効)及對戰車組織ヲ十
分ナラシム對戰車肉迫攻撃手ノ頗ル有効ナリ
敵上陸準備間ニ火器ヲ過早ニ暴露セルヲ要ス
三島内ニハ内部戰鬥ハ豫想敵上陸点ヨリ我確保スル要域特ニ飛
行場ニ對シテ敵ノ地歩擴張ヲ制スル如ク散帶陣地ヲ設ケ重要ナル方
向ニ交通通信網ヲ設ク
陣地帶ハ斷續輕易ナルモノモ有テモ有効ナリ
海岸沿ノ道路ヲ利用ヲ期待シ得ス
砲鏡爆撃手ノ交通ニ森林内ト雖モ交通壕ヲ設クルヲ可トス
司令部ハ戰鬥指導本位ニ其ノ位置ヲ選ブヲ要ス
四敵ノ上陸点偵察等ニ依リ企圖ヲ看破シ敵上陸ニ先キテ兵力ヲ移動

一 縱深ニ展開シ邀撃配備ヲ整フ
敵一地上陸セバ遲滯ヲ決意他方面ニ全兵力ヲ抽出転用スルヲ要ス
二 敵上陸點ニ橋頭堡ヲ作ラバ速ニ之ヲ包圍スル如ク既設陣地ヲ利用
シテ戰線ヲ作り我カ火力ヲ集中發揮シテ上陸セル敵及後續輸
送ヲ壓倒シ敵ノ弱點ヲ求メテ攻撃スルヲ可トス
三 四及五ノ兵力ヲ移動ハ砲臺ニ於テモ之ヲ發行得ルルヲ準備シ訓練
ヲ行フヲ要ス
六 軍需品、水ノ配置不良ナル島内ノ戰鬥ニ忽チ戦力ヲ低下スルカ如
キコトナキヲ要ス
七 之ヲ要スル島嶼防衛ニ縱ニ友軍航空隊及艦隊ノ協力ヲ缺クモ
築城ヲ善用シ堅固敵關係戰全島ニ寄與スル用意ヲ要ス(終)

第七 離島防衛ニ若干問題關スル補足的説明

水際撃滅主義ニ就テ
上陸防禦正面ト兵力ト關係ニ地形上之ヲ許ササル場合ノ外水際撃
滅ノ主義ハ築城、裝備ノ工夫ト相俟テ依然トシテ之ヲ堅持スルヲ要ス